

# 平成28年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

学校番号

7

福岡県立門司学園高等学校長 印

学校運営計画(4月)				評価(3月)	
学校運営方針		併設型中高一貫教育校の高等学校として、併設中学校の教員と連携し、その特性を最大限に生かす6年間を見通した教育課程を確立し、100年後に繋がる確固たる礎を築く。			
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標		
<p>一昨年度から、中高合同教科研修会等を開催するなど積極的に中高の連携を推進し、6年間を見据えた教育活動展開のための環境づくりに努めた。生徒の実態に即し、学校の特性を生かしたカリキュラムの検討、自主性をもった生徒会の育成、中学校や塾への広報活動と併せ一定の成果を上げているが、今後も検討・改善を継続し持続可能な教育課程や教員組織を構築する必要がある。</p> <p>今年度は、上記取組の継続とICT機器等を効果的に活用したアクティブ・ラーニングに積極的に取り組み主体的に考え、行動できる生徒の育成を目指す。また、この取組を通して「鍛ほめ福岡メソッド」を実践する。</p>		学力向上策の実践と改善	中高を越えた相互の授業参観と教科会議の充実に努めることで、授業の検証改善サイクルを確立する。		
			アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を推進する。		
		心を耕す教育の充実	ICT機器を効果的に活用した授業を推進する。		
			「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた教育活動を実践する。		
心と体の健康教育推進	日常の教育活動全般において自他を認め合うことができる取組を行い、生徒の人権感覚を育成する。				
	学校不適應等の問題を抱えた生徒の早期発見と支援のため教育相談体制を充実させる。				
広報活動の充実及び地域との連携		発達障害や学習障害等の特別な配慮を要する生徒への理解と対応のため職員研修を実施する。			
		公開授業(8月)・オープンスクール(11月)を実施するとともに、ホーム・ページの充実に努める。また、地域や同窓会等の外部人材を積極的に活用する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
第1学年	集団生活におけるマナー・モラルを身につけさせる。	門司学園高校の一員として、自覚ある、責任ある行動を常に意識させるよう生徒に話をしていく。	B	B	<p>本年度あまり活用できなかった手帳をしっかりと活用できるよう意識し、指導を行う。また、それによりきちんとした計画性を持たせ行動できるようにする。</p> <p>これからの入試や社会に出るために必要な学力や表現力などを総合的に身につけられるようにするため、学習指導はもちろんのこと文章力、口頭での表現力なども指導していきたい。また、基本的な生活習慣についても引き続き、重要事項として指導していく。</p> <p>生徒が常に目的意識を持って、学校生活に臨めるよう助言・指導を行う。</p>
		校歌・清掃活動・話を聞く姿勢などについても指導を行う。	B		
	自己を分析し、適切な進路選択が行えるよう指導する。また、高校生としての自覚も促す。	面談指導を行い、自分のことを口頭で表現できるよう指導する。	B	B	
		自分のことを文章で表現できるよう指導する。	B		
		情報収集をきちんと行い、進路選択が行えるよう指導する。	C		
第2学年	基本的習慣の確立を目指し、自己管理能力を養う。	5分前行動を基本として、手帳に予定やメモをとる習慣をつけさせる。	C	B	<p>最終学年に向けて手帳を用いて、さらに自己管理できるよう指導する必要がある。生徒自らのさわやかな挨拶ができていない。お互いに気持ちの良い挨拶ができるように声掛けをしていく必要がある。</p> <p>進路実現のために意識を高く持たせ、積極的な姿勢を持たせる必要がある。また、日々の予習・復習、考査への取り組み、模擬試験の復習などの家庭学習を継続的に進められるよう指導していく。</p>
		挨拶・話を聞く態度・言葉遣いの指導の徹底を行う。	B		
		社会的ルール・モラルを守り、思いやりのある言動がとれるよう指導する。	B		
	自分の進路目標の達成のために勤勉に学習する習慣を養う。	平日2時間以上、休日3時間以上の家庭学習時間の確保を目指す。	B	B	
出前講義・オープンキャンパス等を活用して、自らの進路を考えさせる。		B			
		個人面談を通じて生活面・進路面の指導を行う。	B		
第3学年	2年次までに培った基本的習慣・自己管理能力をもとに、進路実現に向け、第一志望校へ合格できる学力の育成を図る	授業を中心とした学習習慣を定着させる。	B	A	<p>個人面談は年4回実施でき、生徒の進路希望の把握ができた。実施時期に関しては、生徒の状況を見ながら判断する必要がある。また、授業でやったことを確実に定着させるために、復習を中心とした学習習慣の定着を促す必要がある。</p> <p>最高学年として、後輩の手本になるようにと考えていたが、集会等の態度も良くなく、悪影響を与えた部分もある。進路指導が中心となるあまり、教員も生徒指導面で甘くならないようにする必要がある。</p>
		時期を考えて、年間4回の生徒との個人面談を実施する。	A		
		入試に関する情報提供を適宜行う。	A		
	7期生までのよい伝統を継承しながら、中高6学年の最高学年としての強い自覚をもち、後輩たちの良き手本となれるよう指導する。	5分前行動、挨拶の徹底をもう一度行う。	B	B	
		集会等で集まるときは、見本となるような行動をとるように指導する。	B		
		1年次からの基本的なことを再確認することで、学年の規律、活気を維持する。	B		

# 平成28年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

学校番号

7

福岡県立門司学園高等学校長 印

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教務課	授業規律の徹底 基礎基本となる確かな学力の定着 アクティブ・ラーニング型授業、 ICT教育(ICT機器の使用)への挑戦	出席率99%、出席皆勤者60%以上(各学年100名以上)を目指す。	B	B	B
		家庭学習時間の確保、課題提出の徹底などにより最低評定3を実現する。	B		
		アクティブ・ラーニング型授業の研修、実践を促進する。	B		
		ICT機器の積極的使用を推進する。	B		
観点別評価の研究 授業確保と時間割変更の徹底	評価規準を考察し、年間指導計画に反映する。	A	A	A	①アクティブ・ラーニングへの対応…研修会や勉強会に参加した教員から全教員に還元できるような機会を設けなければならない。アクティブ・ラーニングをテーマにおいた各教科の研究授業を依頼する。 ②ICT教育の充実…機器の充実、利用頻度の増加など良い傾向にあるが、より充実を図り、すべての教員が機器を使用して授業が展開できるよう働きかけていく。 ③観点別評価への対応の充実…年間学習指導計画の中で評価規準の設定を毎年行っているが、実際の評価につながっていない。教務内規を含めて抜本的な変更に取り組む必要がある。
	行事の精選による授業確保と授業変更等のルールを徹底を図る。	A			
企画課	広報活動の推進 生徒募集	ホームページの更新頻度を増やし、情報発信力を高める。	A	B	B
		体験入学を2回実施し、本校の魅力を参加者に伝える。	B		
		中学校・塾へ数多く訪問し、本校の特色を理解してもらう。	B		
	PTA活動の充実 併設中学校との連携	PTAの一本化に伴い、円滑に運営できるようにする。	A	B	
国際交流美術展を校内・校外で実施し、本校の活動を広く紹介する。		B			
一斉メール送信により、学校と保護者の連携をより密にする。	B				
生徒指導課	基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成 生徒会を中心とした学校行事・校内活動の推進	あらゆる機会にマナー指導を行い、高校生らしい態度で生活させる。	B	B	B
		SNSによる様々な迷惑行為の未然防止等の徹底を図る。	B		
		具体的活動計画を立てさせ、中央委員会の日常の活動の充実を図る。	C		
	部活動の活性化 安全な登下校の確保	部活動の衰退を防ぎ、特に女子の活性化を図るための方策を講じる。	B	A	
門学生としての誇りと愛校心を養成し、部活動加入率80%以上を達成する。		A			
バスの利用状況を確認し、必要があれば改善の交渉を行う。	A				
保健課	環境整備及び美化活動 生徒職員の健康管理	15分清掃の徹底(35分のチャイムで挨拶・終了)を行い環境整備を図る。	B	B	B
		健康診断や各行事前の健康相談を実施し、事前事後指導の徹底を図る。	A		
		生徒・職員の健康維持のため、環境改善策の調整を図る。	B		
	事故・災害の防止対策 教育相談活動の推進	衛生委員会と保健委員会が連携し、施設・設備などの安全点検を実施する。	B	A	
避難訓練や救命救急講習会を充実させ、防災教育の徹底を図る。		A			
スクールカウンセラーとの連携を図り、生徒が抱える諸問題に対応する。	A				
進路指導課	系統的な進路指導の実践 新テストの研究・対策	併設中学校の進路指導課と連携しながら、6ヵ年の進路指導計画を策定し、実践する。	B	B	B
		門司学ライブ(出前講義)を中学1年生から高校2年生を対象に行う。	A		
		門司学プランの修正を検討する。	B		
	難関大学合格者の育成	成績上位者への積極的な指導を推進する。	A	B	
生徒が進路指導室をより一層活用しやすい環境にする。		B			
受験制度の理解等を深めることによって、生徒の受験への関心度を高め、効果的な勉強法を身に付けさせる。	B				
研修課	職員研修の充実	教科別に研究授業を実施し、中高両方の教員で参観する。	A	B	A
		授業の充実・改善のために、生徒による授業評価アンケートを実施する。	B		
		相互理解を深めるため中高合同の職員研修会を実施する。	B		
	読書活動の活性化	全職員協力の下、初任者研修を充実させる。	A	A	
学年ごとに幅広く題材を選択して、進路実現のための「朝の読書」を継続する。		B			
中学生・高校生の両方が有効に図書館を利用できるように環境を整える。	A				